1. 著者らは心理学研究の再現可能性をどのように調べたか，本文の内容に基づき，100 字以内の日本語で説明しなさい。(10 点)

2. 下線部の英文を 120 字以内の日本語に訳しなさい。(10 点)

3. 著者の結論（CONCLUSION のセクション）を 250 字以内に要約しなさい。(30 点)

模範解答と採点基準

1． 著者らは，元の研究と同様の条件で再実験を行うことで（4 点），P 値，効果量，主観的評価，メタ分析など複数の指標（指標ごと 2 点，合計 6 点）から再現可能性を検証している。

2． 科学的主張は、それを提唱した人物の地位や権威によって信頼を得るべきではなく(2 点)、その主張を裏付ける証拠が再現可能であることによって信頼されるべきである（2 点)。たとえ非常に優れた研究であっても（2 点)、偶然や体系的な誤りにより（2 点)、経験的な結果が再現できないことがあり得る（2 点)。

3． 単一の指標では再現性を適切に評価できないとし、複数の観点から検証すべきである（8 点)。多くの再現実験で元の研究よりも弱い効果しか得られなかったことから、心理学研究における再現性は全体として低い傾向があると結論づけている（8 点)。また、再現の成否は研究チームの特徴よりも、元の研究における統計的証拠の強さにより予測されることが示された（8 点)。さらに、科学界では新規性が重視され、再現研究の動機づけが不足している現状にも課題があるとしている（6 点)。

出題の意図

心理学を大学院で学ぶ上で必要な英文読解能力を問うことを意図した。

出題意図

心理学研究科では、英語文献を参照して国内外の研究動向を把握するため、専門的な英文献を読み解く能力が求められる。そのため、問 1 および問 2 では英語の読解力を測る問題を出題した。

さらに、英文献の内容を論理的に整理・要約する能力も重要であることから、回答形式は要約とした。

＜解答例＞

問 1.（20 点）

本文中で記述されている「個人の学習」と「組織レベルの学習」について、要約して説明しなさい。

「個人の学習」（10 点）

1. すべての経験が必ずしも学習につながるわけではなく、むしろ学習に悪影響を及ぼす可能性もある。（1 点）
2. これまでの学習の文献では、経験は学習の有益な源泉として捉えられてきました。（3 点）
3. しかしながら、「経験は学習に有益である」という考え方は、すべての種類の経験に当てはまるわけではなく、特に失敗など、負の感情や帰属バイアスを引き起こすような経験には当てはまらない可能性がある。（3 点）
4. この分野の研究者にとって、経験がもたらす学習の機会だけでなく、学習意欲の変化など、経験がもたらす他の結果も考慮することが重要だと考えられる。（3 点）

「組織レベルの学習」（10 点）

1. 組織は個人の集合体であるため、個人の学習は組織の学習に影響を及ぼす。（3 点）
2. 組織間で学習率の差異が見られる場合、その要因は個人の学習率の差異によるものかもしれない。つまり、個人の学習を改善する方法を知ることは、組織のパフォーマンス向上に役立つでしょう。（3 点）
3. （個人の学習意欲は、失敗からの学習における重要なメカニズムであり）学習能力が高いと認識される資格や過去の経験を持つ個人は、より高い学習意欲を持っている。つまり、学習能力が高いと認識される資格や過去の経験を持つ個人は、（失敗があっても）学習を継続する期間が長くなる。（3 点）
4. 当研究は、この基礎的な関係を深く理解するために、個人の自身の失敗からの学習に焦点を当てていたが、今後の研究では、複数の個人レベルの学習プロセスがどのように集約されて組織の成果に影響を与えるかを検討する可能性がある。（1 点）

問 2.（30 点）

この研究について注意すべき点として記載されている内容を要約して説明しなさい。

「注意すべき点：その 1」（15 点）

1. 失敗は状況によってさまざまな形で発生するが、この研究では限定的な状況について検証している（調査対象者は外科医、失敗は手術の失敗と設定）。（5 点）
   例えば、いくつかの研究では、ニアミスや製品リコールなどのそれほど深刻ではない失敗を調査しているのに対して、失敗は患者の死亡という大きなリスクを伴います。
2. したがって、これらの失敗によって引き起こされるネガティブな感情や帰属バイアスの可能性は、リスクがそれほど高くない場合よりも大きくなる可能性があります。（5 点）
3. 私たちの論文で理論化したプロセスは、ほとんどの失敗に関連する状況において（程度は異なるものの）同様に発生すると予測されますが、さまざまなタイプの失敗を経験することによる学習成果を検証するには、さらなる研究が必要です。（5 点）

「注意すべき点：その 2」（15 点）

1. この研究は、繰り返される失敗が個人の制御の及ばない状況を含んでいる。（5 点）
2. このような状況では、失敗が蓄積されるにつれて、個人は自分の失敗を外部要因に起因させる傾向が強くなる可能性がある。（5 点）
3. さらに、調査者の設定では、比較的多くの失敗を蓄積した個人も、その失敗にも関わらず組織に残留することができている（このことから、組織からの解雇の可能性が高い他の状況におけるこの関係について、今後の研究で検証することは有意義である）。（5 点）